

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971000011
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム「やすらぎ」
所在地	〒 408-0031 電話番号 0551-32-3340

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月9日

【情報提供票より】平成20年8月30日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	8人	非常勤 0人 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 平成20年8月30日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	向井医院 山梨甲陽病院 有賀歯科 藤井平皮膚科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年9月20日

このグループホームは、地域の中で長く歴史を持つ社会福祉法人施設の併設として、介護に対する高い理想をさらに実現していこうという、ねらいのもと開設され、5年を経過している。ホームの設備は清潔で広くゆとりがあり、職員も全員常勤体制で、手厚い介護が行われている。利用者全員が集い、月に1回開かれる「井戸端会」では、利用者の意見が活発に出されており、利用者の意向を汲み取ったサービスに活かされている。また、月に一度、家族に送られる請求書やホーム便りには、一人ひとりの様子が丁寧に書き記された手書きの手紙が必ず添えられており、家族の信頼を得ている。地域の福祉拠点として今後も期待される施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は、必ず運営推進会議の場で、議題として話し合いを行っている。前回課題として残った、市町村との連携の項目と事業所の多機能性の項目についても検討し、柔軟性を持った対応をしていくことが確認されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はミーティングで話し合い、職員の意見を取り入れながらリーダーが行っている。外部から評価を受けることで、日ごろのサービスを振り返る、よい機会と捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に一度開催し、行事予定や活動報告を主に議題としている。外部評価結果を受け、改善点などについて検討してもらい、サービスの向上につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に一度、通信等と共に職員から家族に向けて手紙を送っている。行事の様子や日ごろの細かな体調について丁寧に書かれており、職員の努力が伺える。家族会はないが、年に4回ほど行う行事に家族も多数参加されるため、家族間の交流が行われてきている。面会の際に話しやすい雰囲気作りに努め、家族の要望を聞き取るようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の住民には、野菜をいただくなど日常的に交流がある。保育所や学校等と行事を通して、交流を盛んに行っている。手作りの品を保育所の運動会のおみやげに使ってもらうこともある。また、地域の文化祭に作品を出品したり、お祭りに参加したりしている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームやすらぎ

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護福祉の原点をみつめ、地域の中でその人らしく暮らせることをねらいとして、具体的な理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや日々のサービスの中で、理念について確認する機会を持っている。理念は職員に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民には、野菜をいただくなど日常的に交流がある。保育所や学校等と行事を通して、交流を盛んに行っている。手作りの品を保育所の運動会のおみやげに、使ってもらうこともある。また、地域の文化祭に作品を出品したり、お祭りに参加したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングで話し合い、行っている。外部から評価を受けることで、日ごろのサービスを振り返るよい機会と捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、行事予定や活動報告を主に議題としている。前回の外部評価を受け、改善点などについて検討してもらい、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として、市町村担当者と積極的ににかかわりを持ち、ホームのことを理解してもらおうと努力している。小さな事故等についても、必ず連絡・報告を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、法人全体の広報、「やすらぎ通信」、小遣い帳のコピーなどと共に、職員が一人ひとりの利用者の家族に充てて、手書きの手紙を送っている。行事の様子や日ごろの細かな体調について、丁寧に書かれており、職員の努力が伺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、年に4回ほど行う行事に家族も多数参加されるため、家族間の交流が行われてきている。面会の際に、話しやすい雰囲気作りに努め、家族の要望を聞き取るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員の異動は年に2回あるが、最低限の異動になるよう努めている。職員が変わることへの利用者の不安をできるだけ少なくするために、直前まで異動を知らせないなど、状況に応じて配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が月に1、2回あり、多岐にわたる内容の研修を受けている。リーダー研修や中堅クラス、新人研修など対象を絞った研修も行われ、すべての職員が研修を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には他のグループホームが無く、交流の機会を持つことが難しい状況である。県のグループホーム協会に所属している。	○	管理者・職員の視野を広げ、ますます事業所の質の向上を図るためにも、他事業所との交流や連携の必要性について、さらに積極的に考えていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中の体験利用を受け入れている。本人ができるだけ不安にならないよう、馴染んでから利用を開始していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近隣で取れる山菜の料理方法や漬物のつけ方など、利用者に教えていただくことは多い。職員の年代が様々なため、年代に応じて娘や孫など、家族のような、かかわりをしていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1回、利用者が話し合う「井戸端会」を開いており、日々の暮らしのことや行事、献立など様々な点について、利用者の意見を伺っている。日々のかかわりの中で、その人に合った生活を支援できるよう、考えながらサービスに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当を設け、月1回のカンファレンスや毎日のミーティングで職員の意見を聞き取り、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、細かな変化にも対応している。計画は家族に知らせ、確認していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、美容院や美術館への外出支援を行っている。入浴が困難などときには、併設の特養の座位浴を利用することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、併設施設の嘱託医が主治医となっており、定期的に健康管理をしてもらっている。利用者の希望により、今までの主治医にかかりつけ医になってもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしては、介護度4までを受け入れ対象としており、重度化した場合や医療が必要となった場合は、特養や病院に移動することが多い。ホームとして重度化した場合の方針はたてられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけには、職員間で周知徹底し、誇りやプライバシーを損ねないように、細心の注意を払っている。書類の管理は、利用者や外来者の目に付かないところに保存している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらの決まりではなく、起床時間や入浴時間など、利用者本位のペースで生活を送ってもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き入れながら、献立をたてている。季節の新鮮な野菜が豊富に取り入れられ、利用者の楽しみになっている。調理や準備、片付けなど、利用者も積極的にかかわり、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	12時から9時までと、入浴時間が長くとられており、利用者が好きなときに、入浴することができる。風呂場からの眺めもすばらしく、ゆったりとした気分で入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺繍やかご作りなど、利用者が楽しめるものを職員が数多く提供し、張り合いで取り組んでいる。花を生けるのが上手な方は、近隣で咲く花をホーム内いっばいに飾り、皆の気持ちを和ませている。季節の行事が毎月のように計画され、利用者が楽しめるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人敷地内は、自由に歩くことができる。近隣への買い物や散歩は、職員と共に出かけている。自宅の様子を見たい方や美術館鑑賞をしたい方など、個人の要望にも、できるだけ応えるようにしている。月に1度はミニドライブを行い、季節を感じに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。利用者が、不穏な状態のときは見守りを大切にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で、毎月職員の確認として訓練を行っている。利用者も避難する防災訓練は、年に1回、法人全体で行っており、マニュアルや連絡網なども作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がたてた献立を、管理栄養士に見てもらい、指導をいただいている。水分は利用者の好みのものを提供し、十分取れるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、あふれんばかりの花で飾られていて、明るい雰囲気である。共有スペースが広く、掘りごたつやテレビ前のソファなど、いくつかのゾーンが設けられていて、思い思いの場所で、くつろげるようになっている。寒冷地であるが、暖房も完備され、快適に過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある広さの居室には、思い思いの家具やカーテンが持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		